

平成 20 年 12 月 18 日

国立大学法人琉球大学
学長 岩 政 輝 男 殿

琉球大学教授職員会
会 長 星 野 英 一

共通教育における外国語科目削減に係る計画について

記

本学共通教育科目、特に外国語科目について、大幅な見直しを含めた計画が進んでおります。新聞報道によれば、外国語科目は総数で約 160 コマ減、特に英語は 314 コマから 86 コマ減少し、そのうち 79 コマは非常勤講師の担当分と聞いております(沖縄タイムス 2008 年 12 月 10 日付)。

このような外国語教育に関わる大幅な削減は、法人化するにあたって掲げた目標及び現在の「中期計画・目標」に対し矛盾するものといわざるを得ません。そもそも本学の「基本的な目標」には、「国際的に通用する外国語運用能力と国際感覚を有し、国際社会で活躍する人材」の育成が掲げられており、具体的な「長期目標」の一つとして「国際語としての英語」という言葉もあります。また、「中期目標」の「教育の成果に関する目標」に掲げる「国際社会に貢献すべく、多様な文化の理解に努め、外国語（特に英語）による発表・討論能力の向上を図る」、及び「中期計画」の「教育の成果に関する目標を達成するための措置」に掲げる「英語の必修単位数を増やし英語の運用能力の向上を図る」、等に照らしても、やはり語学教育のクラス大幅減は理解できるものではありません。

この点につき、「平成 19 年度監事監査報告」においても、「Ⅲ 1 (4) 本学学生の外国語運用能力向上のための事業等における課題」で次のような指摘があり、今回の計画がその指摘ともかけ離れた計画であることは明らかです。即ち、「常勤教員数に比べて歴大なクラス数が要求されるため、非常勤講師が多くなることは理解できる」と報告され、さらに「可能ならば週 3 回程度の特任的な教員を増やし大学に居る時間を増やすことが学生にとっては望ましい」と、語学の学習環境の改善が指摘されています。

このように語学教育への充実が強く求められているにもかかわらず、コマ数が減った分は、英語の一斉試験や専門科目での英語教育の導入、さらには「学生の自主学習を促す」ことによって、語学力のレベルを維持するというのでは、全く説得力を持ち得ません。学長におかれましては、直ちに語学教育を真に充実させる方向に計画を見直していただき、コマ数の増加、若しくは 1 クラスあたりの人数を減らして少人数教育を行うなど、必要な措置をとっていただくことを強く求めます。

以上